【進路だより】入学選抜の近年の傾向について

進路指導部　横田 裕美

文部科学省公表の進学状況によると、大学や短期大学入学者に占める年内入試（総合型選抜・学校推薦型選抜）での入学者が多数派の傾向がいっそう強まりつつあります。そこで、大学・短大の選抜方法ごとの特徴を整理してご案内しますので、早いうちからの受験準備にお役立てください。

	一般選抜	総合型選抜 （旧称：ＡＯ入試）	学校推薦型選抜 （旧称：指定校推薦）
特徴	内申よりも一発勝負の学力検査（筆記試験）中心の入試結果を重視	アドミッション・ポリシー（大学が求める人物像）にあっているかを重視	高校3年間の成績や活動、在籍校での人物評価を重視
入学者数（%） ※令和４年度	・私大全入学者の 41.4% ・短大全入学者の 10.8%	・私大全入学者の 17.3% ・短大全入学者の 33.8%	・私大全入学者の 33.8% ・短大全入学者の 54.1%
向いている人	・高校全般の成績よりも受験時の学力で勝負したい ・すべり止めを含め複数の学校を受験したい ・英語、数学、国語で不得意科目がない	・スポーツや文化活動で顕著な実績がある ・得意科目/得意分野がある ・コミュ力の高さやアピール力の高さなどの技量がある ・面前で緊張しない	・入学後や卒業後にやりたいことがはっきりしている ・高校で着実な成績を修めてきた ・スポーツや文化活動で顕著な実績がある
利点	大学共通テストの得点や志望先と自身の偏差値から、合格のしやすさが推定できる	実技の方法が公開されており、入念な準備と情報収集をするほど有利になる	・面接や小論文に向けた準備をクラス担任と相談しながら進めることができる
選抜方法	大学共通テストの一次試験と学校独自の二次試験による 私立大の一般選抜は3教科の学力試験が基本 文系学部では英語、国語のほか1科目選択、理系学部では英語、数学、理科というパターンが多い	大学によって多様 面接、小論文が多いが、プレゼンテーション、ディベート、資格・検定試験の成績、大学入学共通テストや独自の学科試験を併せて課す学校もある	事前に提出する所見（指定校型は学校推薦書、公募制は自薦書）、成績と選考会場での面接・小論文 評定平均の基準や推薦基準、所属学校ごとの出願人数の制限を設ける場合が多い
制約	大学共通テストの出願期間の9月までに受験科目や科目数を決めておく必要がある	学校ごとに固有の選抜方法なので、十分な準備期間が必要である一方、他の学校受験への転用がきかない	専願（他の学校へも併せて出願したり入学辞退しないことを誓約する）の場合が多い
不合格の場合	合格発表が遅いので、Ⅱ～Ⅲ期募集の応募が絞られる	その学校の一般入試を受験できる場合が多い 他の学校を探す場合は、大学共通テストを利用していない学校に限られる	その学校の一般入試を受験できる場合が多い 他の学校を探す場合は、大学共通テストを利用していない学校に限られる
入試 スケジュール	1月の大学入学共通テストと2月の二次試験が標準的だが、複数の期を設けて受験機会を増やす学校も多い	9月に出願、9～10 月（共通テストを課す場合は1月まで）に選考が行われる場合が多い	11～12 月に選考が集中